南さつま 縁人 VOL.55
MINAMISATSUMA ENGINE

加世田常潤高校の生徒と共に復興を目指す

上舞 啓一郎 さん（63）

〔 幻の川畑みかん復興会　会長 〕

―名産「川畑みかん」をなんとか復興させたい―

加世田川畑地区が原産地とされる川畑みかんは、見た目は日向夏に似た淡い黄色で、ゆずのようなさわやかな香りとほのかな甘味が特徴の柑橘です。20数年前までは地区の各家庭の庭先で栽培されていたようですが、今ではほとんど見られなくなりました。

上舞さんが川畑小学校のPTA会長をしていた平成7年、完全に姿を消してしまうのではないかという危機感から、川畑みかんの栄光を将来に伝えるため校庭に植栽。以降、子どもたちの卒業記念として苗木を贈るなど、川畑みかんの復興に向け活動してきました。現在、地域の自治会長を中心に有志などを含め、15名で構成される「幻の川畑みかん復興会」の会長を務めています。

復興の輪が広がり、県立加世田常潤高校の食農プロデュース科果樹班でも復興プロジェクトを進めています。上舞さんや関係機関と共に、平成30年から研究・実証を行い、5年目となる今年は果実を利用したゼリーを開発する予定です。

現在、地区内には23本の木があり、内5本で収穫が可能となっています。上舞さんは、「久しぶりに川畑みかんを見た地域の高齢者は、皆一様に当時を懐かしむ。自宅に植えたいと言う人も多い。地域の生きがい作りという面でも、幻となった川畑みかんの郷（さと）を復興させたい」と、意欲を見せていました。

川畑みかん
（昨年12月撮影）

南さつま市に住む、働く、生き生きと活動している人を、南さつま市の輝く原動力（エンジン）としてご紹介します。